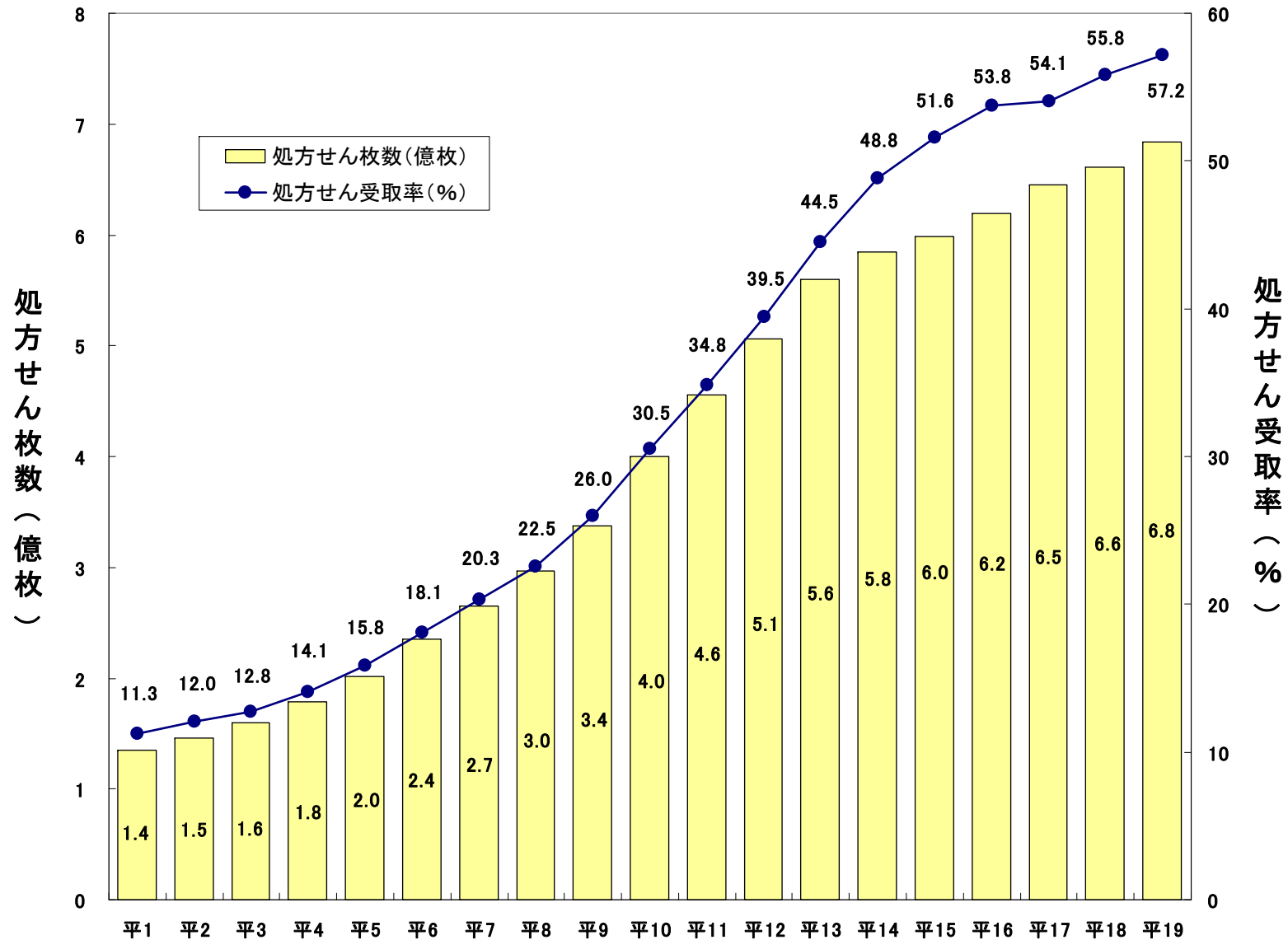


# 薬学系人材養成の在り方 薬局の立場から求める人材

さくらだい薬局

代表取締役・薬剤師 永田 泰造

# 院外処方せん枚数と処方せん受取率



# 調剤業務の変化



# 薬局薬剤師の在宅医療への関わり

---

## 在宅医療への参画

- 用量のチェック相互作用
- 副作用のチェック
- 薬剤選択への薬学的観点からの助言
- 嚥下困難患者・認知機能低下患者への剤形選択
- 調剤方法の工夫・補助手段への助言
- 麻薬・注射薬の取扱の増加
  - 内服・外用の調剤のみならずTPN, 無菌調製を含む調剤も
- 輸液管理・栄養管理への処方支援  
(ターミナルステージに応じた管理)
- 患者家族に対する薬剤情報提供

## 薬局薬剤師の退院時カンファレンスへの参画

- 入院中に実施された医療についての情報共有
- 在宅医療支援に対する診療報酬上の評価

## 薬局薬剤師と病院薬剤師の情報共有のための連携

- 外来化学療法や複数医療機関からの指示情報等の共有, 共同の勉強会等

## 多職種との連携

- チーム医療における質の確保と効率化

# 薬剤師による医薬品管理の例

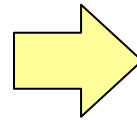
患者Aさん(女性)

病院(心療内科) 処方薬7種類

診療所(内科) 処方薬4種類



介護ヘルパーは入っているが、薬は自己管理でこのような状態だった。  
73日分の処方薬をはじめ、これまで服用していた薬剤も雑多に混入していた。



後日、他科受診で14日分が処方される。処方医に疑義照会を行い、73日分の処方薬も合わせて一包化した。

# 麻薬と薬剤師の関わり

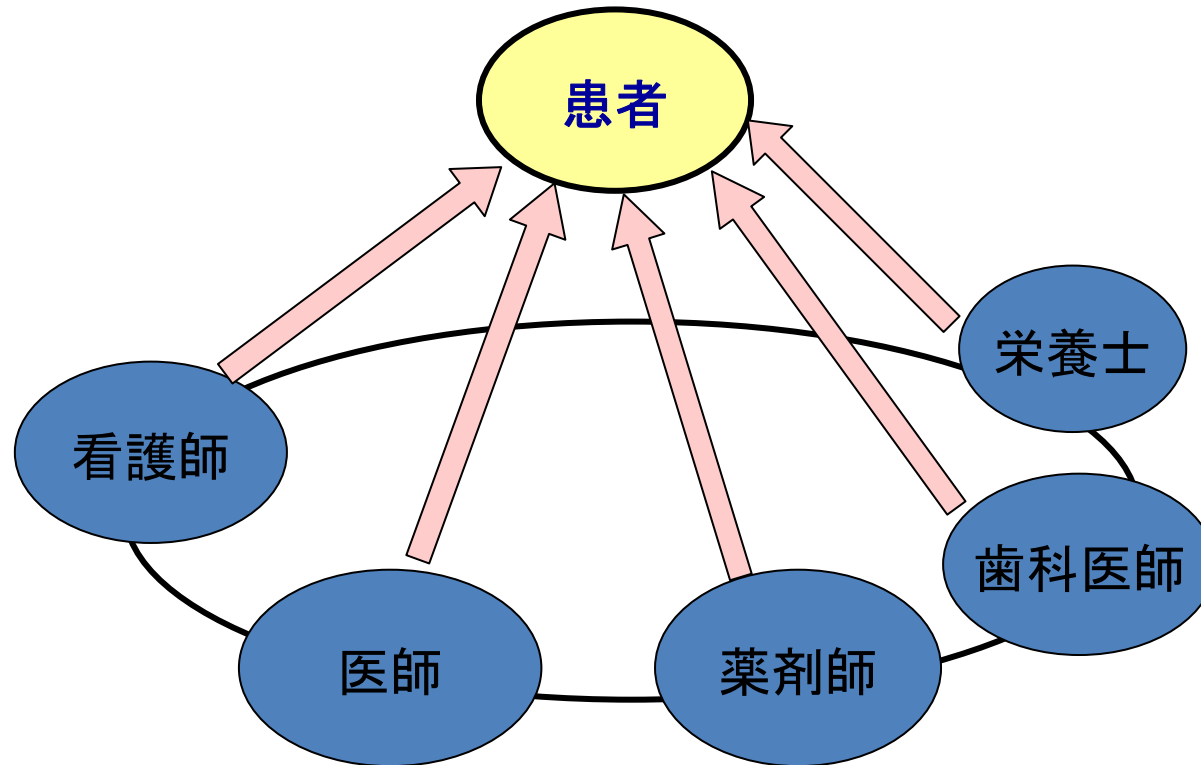
モルヒネ製剤		1981	2000	2008	
注射	アンプル製剤	2	3	3	
	キット製剤	0	0	2	
内服	錠 剤	1	4	7	
	カプセル剤	0	3	9(3)	
	散剤	原 末	3	3	3
		顆粒剤	0	3	5(2)
	液 剤	0	0	2	
外用	坐 剤	0	3	3	
合計		6	19	34(5)	

( )内は後発品の数

調剤上での工夫 → 製剤的特徴をふまえた  
剤形・規格選択への助言

厳格な使用制限 → 積極的使用推進

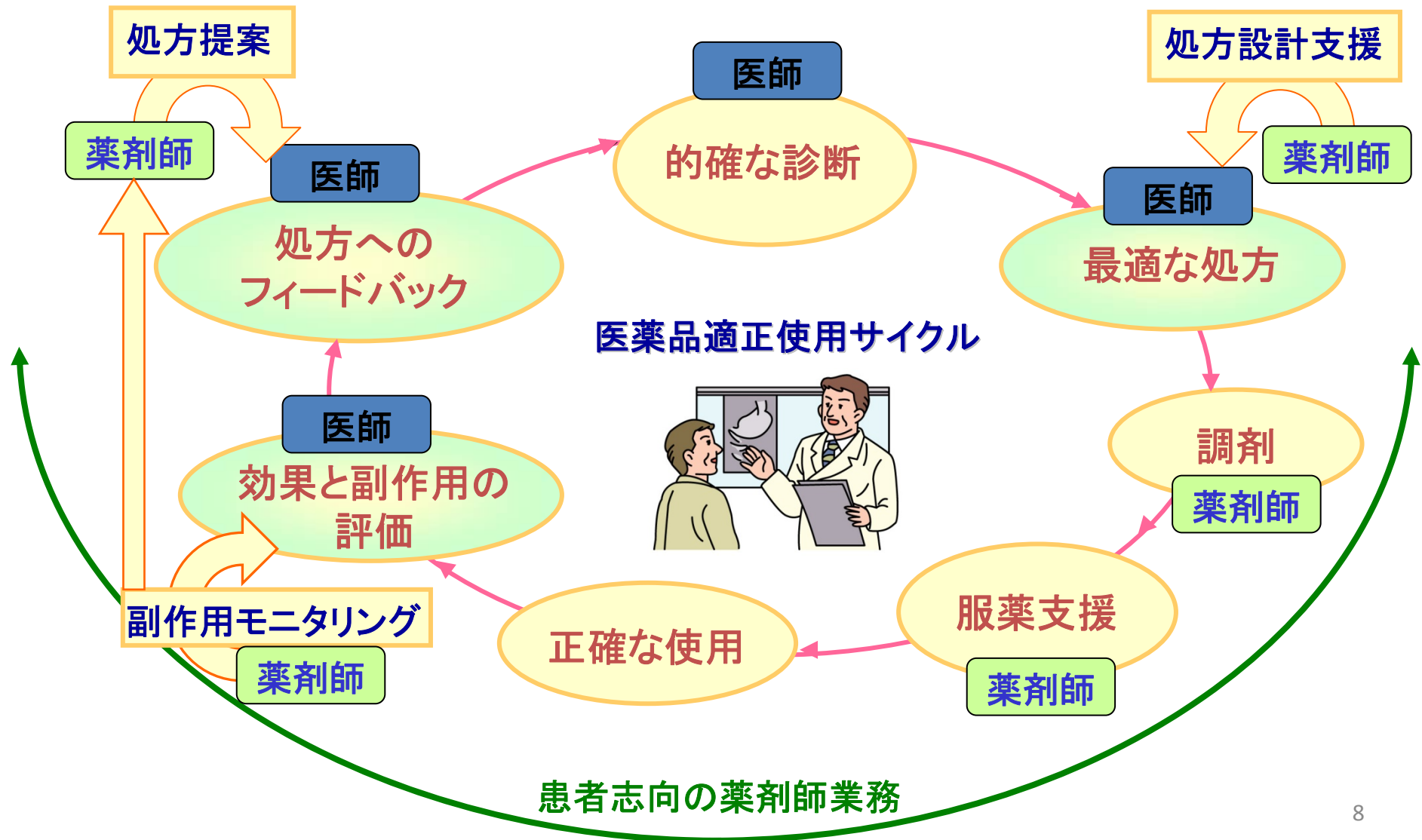
# チーム医療による質の確保と効率化



患者さんを医療の中心において、医師、歯科医師、薬剤師、看護師をはじめとした医療専門職がそれぞれの専門分野を生かして分担・連携し、質の高い医療の実現を達成する医療提供体制。

専門職が分担・連携・相互支援するため、医師をはじめ各職種の負担も分散し軽減化。

# 薬物療法におけるチーム医療の推進





# 学校教育法の一部を改正する法律案に 対する付帯決議（薬学教育関係抜粋）

衆議院（平成16年4月27日）

7. 高度化する薬剤師の職能を支える基礎教育及び実務で要求される知識、技能、医療人としての倫理観が養えるような質の高い教育の維持向上に留意
8. 医療技術の進展等の状況を踏まえ、現に薬剤師の資格を有している者が、生涯にわたり学習する機会の充実に配慮
10. 生命科学の進展、医療の高度化に対応し、大学、民間研究機関等において、国際競争力を持つ創薬等の研究開発を担う人材の育成に努力

# 6年制教育に求めたもの

- 基礎化学教育に加え臨床能力を有する薬剤師の養成
  - － 医療人としての心構え（薬剤師としての理念）
  - － コミュニケーション能力の修得
  - － 患者、家族の痛みが解る（思いやりの心）
  - － 患者の立場に立った問題点の解決（安心・安全）
  - － 高度な臨床薬学の修得

薬剤師として業務を遂行する人材の育成  
《薬剤師養成のための薬学教育》

# 6年制を卒業した薬剤師に求めるもの

- 医療人としてのヒューマニズムを身につけた人材
- 医療の基本知識を身につけた人材
- 薬物治療の知識を身につけた人材
- 薬剤師職能の向上心を身につけた人材
- 薬物治療に対する研究心を身につけた人材

患者志向の薬剤師業務の確立

# 薬剤師研修への期待

患者の目に映る薬剤師の存在はどう変化したのか。  
COMLに届く相談のなかで語られる薬剤師の不満は、  
一向に改善されていません。いえ、**期待する存在として、患者に認知されていない**と言った方が正しい  
かもしれません。相談者が語る薬剤師のイメージは  
「まじめ」「堅い」「暗い」「融通がきかない」……………。  
《中略》薬の専門家として堂々と情報提供するというより、  
**ドクターの顔色や機嫌を伺いながら、裏方に徹する方が多い**ことを患者は敏感に感じ取っています。

(抜粋)

NPO法人ささえあい医療人権センターCOML

理事長 辻本好子

# 薬剤師研修への期待

患者への説明も、あらかじめ用意した薬剤師が必要だと判断した一方通行。(中略)

予想外の質問を患者がすると、とたんに表情が曇り曖昧な解答や、ズレた回答が返ってくる。「今回の薬と以前の薬の違いは？」と質問した患者に「治療薬マニュアル」の化学式を示しながら、「この記号とこの記号が異なってます」と説明したという、苦笑するしかない相談……。また、調剤薬局のチェーン店が増え、「お芝居のセリフのよう」と若手薬剤師のマニュアル的な対応への違和感……。

こうした現状を打開するために、どのような研修が必要か、患者の自立の支援者であってほしいと願うだけに、本気で見直していただきたいと思います。知識と情報だけを積み重ねる自己満足の研修に終わらないためにも……。実践的なコミュニケーションの改善にも……。

(抜粋)

NPO法人ささえあい医療人権センターCOML

理事長 辻本好子

# 薬局が求めるこれからの薬剤師(1)

## 薬剤師本来の役割を果たす

- 安全な薬物治療の提供
  - － より進んだ情報提供窓口
    - 患者・家族のニーズに合わせた情報
    - 後発医薬品情報(メーカー情報の集約ではなく)
    - 健康増進のためのアドバイス
  - － より進んだ情報収集窓口
    - 副作用の早期発見
    - 患者が求める薬物治療 (処方へのアドバイス)
- 高齢化社会での貢献
  - － 在宅医療への役割
    - 緩和ケア、点滴、中心静脈栄養、終末期医療

# 薬局が求めるこれからの薬剤師(2)

- 一般用医薬品、健康相談等セルフメディケーションの支援
  - － 地域住民の健康などの相談窓口としての機能
  - － 生活習慣病対策等への参画
- 地域におけるチーム医療への貢献(地域多職種連携)
  - － 診療所、訪問看護ステーション、介護施設等との職種連携
  - － 病院内のチーム医療における薬剤師と同じ役割を果たす
- 「薬局ならではの」の調査・研究
  - － 医薬品を管理・供給する立場からの視点
  - － 医薬品を使用する患者の立場を考慮した視点

臨床薬学系研究者(薬剤師)の役割  
臨床(現場)での体験を通じた様々な研究・提言  
地域医療で指導者的役割を果たす薬剤師の養成